

船舶事故調査報告書

令和元年 8 月 28 日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成 30 年 10 月 9 日 07 時 11 分ごろ
発生場所	山口県岩国市岩国港 岩国港北防波堤灯台から真方位 134° 1.8 海里付近 (概位 北緯 34° 10.4′ 東経 132° 15.6′)
事故の概要	プレジャーボートたぬき号は、漂流中、また、漁船第二松栄丸 ^{しょうえい} は、引き釣り漁をしながら右旋回中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成 30 年 10 月 18 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート たぬき号、2.6 トン 260-45245 広島、個人所有 B 漁船 第二松栄丸、2.2 トン YG3-60660（漁船登録番号）、個人所有 第 270-45282 号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	A 船長 A、二級小型・特殊 B 船長 B、一級小型・特殊・特定
負傷者	A 負傷 3 人（船長 A 及び同乗者 2 人） B なし
損傷	A 左舷舷縁上に亀裂、操舵室左舷窓ガラスに割損 B 船首部の手すりに曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北、風力 1、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 上げ潮の中央期
事故の経過	A 船は、船長 A が 1 人で乗り組み、同乗者 2 人を乗せ、漂流中、B 船と衝突した。 B 船は、船長 B が 1 人で乗り組み、約 4 ノットの対地速力で引き釣り漁をしながら右旋回中、船首方に A 船を認めた際、今までも漁船である B 船を避けてくれる場合が多かったので、A 船を通過できると思い、操業に意識を向けていたところ、A 船と衝突した。
分析	A 船は、漂流中、B 船と衝突した可能性があると考えられるが、船長 A から情報が得られなかったことから、衝突に至った状況を明らかにすることはできなかった。 B 船は、船長 B が、今までも漁船である B 船を避けてくれる場合が多かったので、A 船を通過できると思い、引き釣り漁をしながら右旋回したことから、A 船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、A 船が漂流中、B 船が引き釣り漁をしながら右旋回中、両船が衝突した可能性があると考えられる。

再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、操業中においても、常時適切な見張りを行うこと。・ 漂泊中であっても、周囲の見張りを行い、接近する他船が自船に気付いていない可能性を考慮し、注意喚起信号を行ったり、余裕のある時期に移動したりするなど衝突を避けるための措置をとること。
--------------	--